

使用単位の相互関係

1. 長 さ

- 1m (メートル) = 100cm (センチメートル) = 1000mm (ミリメートル) = 3.3尺(しゃく)
- $1\text{cm} = 10\text{mm}$
- 1間(けん) = 6尺 = $1.818\text{m} = 181.8\text{cm}$
- 1尺 = 10寸(すん) = 30.3cm
- 1寸 = 3.03cm

2. 面 積

- 1ha (ヘクタール) = 100a (アール) = 1町(ちょう) = 10反(たん)
- 1反 = 10畝(せ) = $10\text{a} = 1000\text{m}^2$
- $1\text{a} = 1\text{畝} = 100\text{m}^2$
- 1坪 = 3.3m^2

3. 容 積

- 1l (リットル) = 10dl (デシリットル) = 1000ml (ミリリットル) = 1000cc (シーシー)
- $1\text{dl} = 100\text{ml} = 100\text{cc}$
- 1斗(と) = 10升(しょう) = 18l
- 1升 = 10合(ごう) = 1800ml
- 1合 = 180ml

4. 重 さ

- 1t (トン) = 1000kg (キログラム)
- $1\text{kg} = 1000\text{g}$ (グラム)
- 1貫(かん) = 3.75kg

主な病害の耕種的予防法

区分 耕種的予防法	I	II	III	IV
抵抗性品種を選ぶ	○	○	○	○
無病な種苗を使う	○	○	○	○
肥料のやり方に注意する	○	○		
排水をよくする	○	○	○	
土壌の酸度(pH)を矯正する			○	
風通し、採光をよくする (密植や雑草を防止する)	○	○	○	
かん水に注意する	○	○	○	
輪作や間作を行う	○		○	○
被覆する(土壌の跳ね上がりの防止 防虫、雨よけなど)		○	○	○
被害株、被害茎葉を取り除く	○	○	○	○
冬季越冬場所の清掃を行う	○	○		
土壌を熱消毒する			○	

(注)病害の区分「I」：べと病、灰色かび病、うどんこ病、えき病

「II」：炭そ病

「III」：立枯病、萎ちょう病、菌核病、白紋羽病、腐敗病

「IV」：ウイルス病

主な害虫の耕種的予防法

区分 耕種的予防法	I	II	III	IV
抵抗性品種を選ぶ			○	
害虫のいない種苗を使う			○	○
風通し、採光をよくする (密植や雑草を防止する)	○	○		○
輪作や間作を行う		○	○	
被覆する(土壌の跳ね上がりの防止 防虫、雨よけなど)		○		
被害株、被害茎葉を取り除く			○	○
冬季越冬場所の清掃を行う	○	○		○
土壌を熱消毒する			○	

(注)害虫の区分「I」：ハマキムシ、シンクイムシ、カミキリムシ、ハモグリバエ類

「II」：アブラムシ類、ハダニ類、オンシツコナジラミ

「III」：タネバエ、ネダニ類、ネキリムシ類、土壌センチュウ類

「IV」：カイガラムシ類

散布液の希釈量早見表

希釈倍率 (倍)	作りたい散布液の量(単位 g または ml)						
	500ml	1ℓ	3ℓ	5ℓ	10ℓ	18ℓ	50ℓ
250倍	2	4	12	20	40	72	200
500倍	1	2	6	10	20	36	100
1,000倍	0.5	1	3	5	10	18	50
1,500倍	0.3	0.7	2	3.3	6.7	12	33
2,000倍	0.25	0.5	1.5	2.5	5.0	9	25

農薬の登録で誤認しやすい適用作物

下表の「作物名Ⅰ」「作物名Ⅱ」「作物名Ⅲ」は作物の名前や形状が似ていますが、農薬の適用が異なります。一方に使用できても一方には使えない場合があるため注意しましょう。

	作物名Ⅰ	作物名Ⅱ	作物名Ⅲ
1	ブロッコリー	茎ブロッコリー	
2	トマト	ミニトマト (直径3cm以下のもの)	
3	ネギ	ワケギ	アサツキ
4	シュンギク	キク	食用ギク
5	芽キャベツ (子持ちカンラン)	非結球芽キャベツ (プチヴェール)	
6	にんにく	葉にんにく	
7	未成熟とうもろこし (スイートコーン)	ヤングコーン (ベビーコーン)	
8	にんにく	葉にんにく	
9	たまねぎ	葉たまねぎ	
10	大豆	えだまめ	



好光性種子と嫌光性種子

発芽するときに光が必要な「好光性種子」、光が必要ない「嫌光性種子」があります。このどちらの性質に属するかで、種まき後の覆土の厚さを調整しましょう。

好光性種子…発芽に光が必要なので、播種時の播種溝と覆土は浅めにしましょう。

嫌光性種子…発芽に光が必要ないため、種の直径の2～3倍の厚さに土をかけましょう。

野菜種子の光と発芽の関係

	分 類	野 菜
好光性種子	アブラナ科 キク科 セリ科 シソ科	キャベツ類、カリフラワー、ブロッコリーなど ごぼう、レタス、しゅんぎく ミツバ、セルリー、にんじん シソ
嫌光性種子	アブラナ科 ヒガンバナ科 ナス科 ウリ科	だいこん ねぎ、たまねぎ、にら、リーキ トウガラシ、なす、トマト すいか、かぼちゃ、とうがん、きゅうり

マルチの種類と効果

マルチの種類	地温上昇	地温抑制	雑草防除	水分調節	害虫防除
透明ポリマルチ	◎	×	×	◎	△
黒ポリマルチ	○	○	◎	◎	△
シルバーポリマルチ	△	○	◎	◎	◎
白黒ダブルマルチ	×	◎	◎	◎	○
稲わら	×	◎	△	○	△

マルチとは、作物を育てている畑の畝を覆う資材のことです。種類によって様々な効果が期待できるため、目的とする効果や使用時期によって使い分けましょう。

野菜の肥料の効かせ方のタイプ

タイプ	野菜の種類	肥料の効かせ方
スタートダッシュ型	ほうれんそう、レタス、さつまいも さといも、じゃがいも	●元肥主体に ●全層施肥 ●後半からは窒素を効かさなくてよい
スタートダッシュ型 (中間)	キャベツ、はくさい、たまねぎ ながいも	●元肥を主体にやや長持ちする肥料を ●生育中期までは肥切れさせず、後半は控えめ
コンスタント型	きゅうり、トマト、ピーマン、なす、ねぎ さやいんげん、えだまめ、にんじん	●元肥には肥効が長持ちする緩効性肥料を ●追肥は少量ずつ回数多く、肥切れさせない
ラストスパート型 (中間)	アスパラガス、とうもろこし エンドウ、いちご	●元肥は控えめに ●追肥は早めに ●肥切れさせぬように
ラストスパート型	かぼちゃ、とうがん、すいか、メロン だいこん、ごぼう	●つるぼけ防止のため、元肥は控えめに ●中期から後期にかけて、追肥で生育調整

野菜の種類によって元肥と追肥のバランスを調整して、効果的に施肥をしましょう。

◎本書で記載の多い肥料の特徴

- ・苦土入り化成肥料 8-8-8 …… 速効性で、低成分のため肥料焼けしにくく、多くの野菜に使える。
- ・化成肥料 14-10-13 …… 速効性で、高成分のため施用量が少なく済む。均等に散布するよう気をつける。
- ・大阪北部エコ有機 3号 …… 緩効性で、有機質原料を 60%以上含み、多くの野菜に使える。

主な作物・野菜が好む土壌 pH

	土壌 pH	作物・野菜
アルカリ性	6.5～7.0	ほうれんそう
	6.0～7.0	トマト、アスパラガス、キャベツ、だいこん、エンドウ
中性	6.0～6.5	かぼちゃ、きゅうり、すいか、とうもろこし、なす、ピーマン メロン、カリフラワー、こまつな、しゅんぎく、チンゲンサイ、にら ねぎ、はくさい、ブロッコリー、レタス、さといも、えだまめ さやいんげん、そらまめ
酸性	5.5～6.5	水稻、いちご、かぶ、ごぼう、たまねぎ、にんじん
	5.5～6.0	さつまいも
	5.0～6.5	じゃがいも

作物・植物が最もよく育つ pH の目安は、一般的に pH 6.0～6.5 くらいです。多くの作物が中性を好みますが、アルカリ性、酸性を好むものもあるため、栽培する作物・野菜に合わせて、土壌の pH を調整しましょう。

栽培を楽しもう!

Q 初めて栽培する作物、以前栽培したがうまくいかなかった作物、うまく栽培できるがもっと楽に栽培したい。などなど…

A

何に一番気をつけたらよいのだろう?

1. **果菜類や果樹など**、花を咲かせ実をつける作物は、草勢や樹勢が弱すぎたり、強すぎないように施肥や水管理、芽かきや新梢管理等で調整します。
①果菜類のうち、トマト、すいか等の甘さを重視し完熟して収穫するものは、
⇒⇒⇒**特に、葉や果実に光が良く当たるような管理をします。**
②果菜類のうち、なす、きゅうり、ピーマンなどは、未熟な果実を食べるため、
⇒⇒⇒**穫り遅れると草勢が弱ります。**
③果樹類は、少なくとも10年以上も同じ所で管理します。そのため、植え付け時に
⇒⇒⇒**大きな植え穴を掘り、有機物などで埋め戻して根が張りやすいようにしたり、若木の間に骨格となる主枝をつくることです。**
2. **葉茎菜類**は、**発芽から生育を揃え**、収穫作業を楽にするため、うねたて、種まき、かん水、間引きなどの管理が重要になります。
3. **根菜類**は、柔らかくて、排水の良い土で、**土寄せなどをこまめにします。**
4. 何よりも、目には見えませんが、作物を地下で支えている根の生育が悪いと、地上部も生育が悪くなります。しんどいですが、そのための**土づくりは、健康な作物を作るためには重要です。**

要は、自分がその作物の立場になったら、人間にどんな管理をしてもらいたいかです。もちろん、作物の立場だけでは、草勢や樹勢が強くなりすぎて、花や果実をつけなくなります。そのため、強くなりすぎないようにする必要もあります。その代わり、いい果実をたくさんならせたら、すぐ効く栄養を与えて、体力を回復させるなど、**作物をよく観察して、気付いたことを栽培記録簿やこの本に記録しておけば、次にとても役立ちます。**